

平成25年度全国学力・学習状況調査について

平成25年4月24日（水）に、中学校3年生を対象として、「平成25年度全国学力・学習状況調査」が行われました。調査は、文部科学省が調査対象として抽出した学校と、希望利用による学校で行われました。本年度、本校は希望により、調査に参加しました。内容については国語A、国語B、数学A、数学Bの教科に関する調査と、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査が実施されました。昨年度実施された理科は、3年に1度ということで、本年度は実施されませんでした。このほど、その調査結果が発表されましたので、国語、数学の教科についてご報告いたします。

傾向としては、国、広島県とともに、昨年度同様、AがBに比べ平均正答率が高く、知識・技能が身につけているけれども、知識・技能を活用することに課題があるようです。今後ともさらなる学力向上に努めるとともに、生徒一人一人の弱点を見つけ、その補強に努めていきます。

各教科の平均正答率（％）

国語						数学					
A問題			B問題			A問題			B問題		
国	県	本校									
76.4	76.7	90.7	67.4	69.2	87.5	63.7	64.8	87.3	41.5	43.5	69.5

本校の定着状況と課題

国語

【領域ごとの定着状況】

国語A

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	本校
話すこと・聞くこと	77.6	78.4	90.7
書くこと	64.5	66.2	88.1
読むこと	80.0	80.3	97.2
言語事項	77.5	77.4	89.0

国語B

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	本校
話すこと・聞くこと	—	—	—
書くこと	62.7	65.2	84.6
読むこと	67.8	69.5	88.5
言語事項	64.6	66.8	79.5

・A問題では、全国平均、県平均を20ポイント前後も上回っており、どの領域も基礎的な力が定着していると考えられます。更に今年度は、国語の無解答が本校では一問もありませんでした。どんな問題にもあきらめずに取り組んでいこうとする意欲の表れです。また、知識・技能を活用するB問題でも、いずれの領域においても15ポイント以上回っています。しかし、話し合いの場面で司会者がどのような言葉で話し合いを進めていくか、適切なものを選ぶ問いについての正答率が、他の問と比較してやや低い点が目立ちました。生徒の多くが司会者としての経験値が低いことや、実際の場面においてどのように「話す」ことが有効であるかといった実践をする機会が少ないことが要因と思われる。国語の授業の中でも「話す・聞く力」を育てる場面を、意識的に創ることが今後の改善課題です。

・日頃の授業の中で、自分の考えを言葉で発する時間を確保し、相手の話をしっかり聞いて、自分の考えを持つという授業規律の基本も引き続き大切にしていきたいと考えています。

数 学

【領域ごとの定着状況】

数学A

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	本校
数と式	72.7	74.1	93.9
図形	64.6	65.7	90.4
数量関係	58.7	59.4	82.6
資料の活用	46.8	48.9	70.5

数学B

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	本校
数と式	41.7	44.9	74.4
図形	44.8	44.9	66.7
数量関係	40.0	41.6	68.8
資料の活用	42.2	43.9	64.5

A問題において、全国平均、県平均を、数と式の領域では、ほぼ20ポイント、その他の領域では20ポイント以上上回り、概ね計算力、表現力は定着しています。数量関係、資料の活用がやや低いものの、全国、県平均に比べると、大きく上回っています。

B問題では、正答率自体はA問題に比べ低いものの、A問題以上に両平均を上回っており、多くの生徒に、自ら考え、問題解決していく力が定着していると考えられます。

【課題】

数量関係領域においての関数の概念や、資料の活用についての定着が不十分のようです。記述式の問題に対する正答率が低く、解き方は理解できているが、考え方を説明できない生徒が多いようです。日々の授業の中で、結果ではなく、過程を重視し、説明する場面を多く取り入れていく必要があると考えます。関数に関しては、各学年で学習しますので、その都度、概念を再確認していきたいと思えます。資料の活用については、年度の終わりの単元で、取り扱う時間が少なくなりがちなので、計画的に時間を確保し、十分な演習を行うとともに、次年度でも復習していきたいと思えます。

また、A問題においては、90%の定着状況になるよう、毎日の家庭学習にドリルを取り入れながら、基礎基本の定着を目指したいと思います。